

教育講演2

知床斜里からの減圧症患者搬送 ～ 救急車とドクターヘリ

上見 崇¹⁾ 其田 一²⁾

- | |
|----------------------|
| 1) 斜里地区消防組合消防署 |
| 2) 市立釧路総合病院 救命救急センター |

斜里町は、世界自然遺産である知床半島のオホーツク側にある町であり、主要産業のひとつである漁業のなかでも定置網を使った沿岸漁業が盛んです。その定置網漁では90名ほどの漁業者が潜水作業に従事しており、深さ30m～40mでの作業は1回あたり20分～30分で潜水の回数は、多い日で1日10回程度となっております。

昭和46年に町内の病院に設置された複式潜水病療養缶による治療が行われておりましたが平成11年に有資格者が不在となってからは、斜里町から245km離れた旭川医科大学までの搬送が必要となりました。経路上には標高800m近くの峠があるため、ポータブル再加圧タンクを使用した搬送体制を作りました。事例を基に斜里町における減圧症の救急搬送体制ついて紹介します。

また今回、知床斜里町での潜水作業による減圧症への対応として直近の再加圧療法が可能な救命救急センターへのドクターヘリでの搬送を想定しシミュレーションを行いました。ドクターヘリの機内は与圧されておらず外気圧と同じなため、発生場所のランデブーポイントから搬送先医療機関までの最低高度を保てると考えられる飛行経路を策定し、実際の搬送時間、飛行高度を測定しました。シミュレーションでドクターヘリによる搬送は可能である事がわかりましたが、その安全性・有効性、限界について考察したいとおもいます。